

## DEVELOPING THE WHOLE PLAYER/ THE ROLE OF SOFT SKILLS IN JUNIOR COACHING

### 子どもたちを人間的にも育てる/ジュニア指導でのソフトスキルの役割

エマ・ウェルズ



ジュニアを指導するコーチとして「有能」で「何事にも対応できる」ようになろうと思って、指導内容の見直しを考えると、まず一番に思いつくのは「新しい情報」を見つけようとするでしょう。その一方で、適切な内容のものを提供することは非常に重要です。ジュニアの指導で最良の内容のレッスンをを行うためには、「ソフトスキル」を発揮できるかどうか求められます。

私がこのソフトスキルの重要性に気がついたのは、15年前にシエラレオネでのボランティア活動に参加していたときのことでした。大学を卒業して、テニスコーチの資格を取得したばかりの私は「素晴らしいレッスン」をする気満々でした。しかし、40人の子どもたちが全く英語ができないことを知りませんでした。数年前の内戦の戦火にさらされて復興途上にあった小さな村の人たちにとって、私は彼らが初めて目にする白人女性だったのでした。

授業を待ち望んでいた大勢の若い生徒たちが英語がほとんどわからないということを知ったとき、私のレッスン計画はすぐに破綻しました。指導は、つたない英語力の学校の先生を通じて行わざるを得ませんでした。大勢の生徒の指導をする上では、いかに「流れ」を掴んで、全体の動向を把握するかということが大切です。ですから、このグループに意味の通じない言葉で指導をするということは、単純に言って効果のない方法なのです。



生徒全員と、シンプルで効果的な方法でコミュニケーションをとって、全員を動かして学ばせることはできないものだろうかと考えました。集中する部分と取り組み方の変更をすることで、生徒をひきつけてコミュニケーションがうまく取れるようになるかどうかは、私自身のソフトスキルへの挑戦でした。おっかなびっくりの試みでしたが、生徒のニーズに応えるには私が変わらなければなりませんでした。当時は、双方向のコミュニケーションを取るために、まず、いかにして言葉を使わずに動作を見せることが大切であるかを学びました。

伝えたい動作をやって見せながら生徒の間を動き回ることが、まず根本的な取り組みでした。言葉での説明ができない状況では、こういったソフトスキルを用いて繋がりを持ち、笑顔や親指を立ててのグッドサインや、ハイファイブなどで生徒たちを褒めることが、基本的なことになりました。

ハードスキルが使えない状況では、ソフトスキルをいかに使うかが大切であることを学んだ環境でした。私は、コーチの皆さんへのインタビューでは、いつも指導をすることの楽しさはどこにあるのかを尋ね、また、生徒と接する上でのソフトスキルについても伺います。単に、テニスが好きで楽しいからだという答えの場合には、更に突っ込んで質問をします。

皆さんが指導をなさる場面でも、白か黒かが明確になる場面よりも、先に述べたような対応が求められることがあると思います。そういった対応をすることが、皆さんや皆さんのチームの面々にとって重要で価値のあることになると思います。

## ソフトスキルについて考えてみましょう

ソフトスキルについて、4つのシンプルで効果的な部分に分けてみました。それぞれについて、自分を振り返ったり、ビデオを見返したり、仲間や先輩のコーチの方々からのフィードバックを得ることが必要です。人間を相手にソフトスキルを使う場合、あるテーマで成果が確認しやすい方法を用いたレッスンプランを書き出して行く方法とは比べ物にならないほどの難しさがあります。

他のコーチには確認できたとしても、それらは、自分を振り返ったり、自分のレッスンのビデオを見返したりして感じることで違った受け止め方をされるでしょう。その理由の一つには、自己認識とこれらのスキルの重要性をどれほど感じているかがあると思われるかもしれません。間違いを指摘することは容易いことですが、なぜそれが起きているのかを見極めるのは難しいことです。

### 1. エネルギー

あなたはどのくらいのエネルギーを準備に費やしますか。指導するグループにとってわかりやすい内容のものにするためにどのくらい練り上げますか。

手伝ってくれるコーチとの連携はどうでしょうか。あなたが作成した内容を十分に理解してくれて素晴らしいレッスンを行うことができるような理解の深い関係でしょうか。

生徒の学習能力を最大限に引き出すために、時にはエネルギーギッシュな、時には穏やかな接し方の区別の必要性を理解していますか。

あなたのレッスンが常に内容のあるものであるために、エネルギーレベルをコントロールして指導者として「燃え尽き」ないようにする術を心得ていますか。

### 2. 感情的知性

人と関わる上での自分の長所と短所に気づいていますか。週の80%は少人数を相手の指導をしていて、ときに理解力の異なる6~8人のグループを指導するとなった場合、普段使っているソフトスキルがうまく使えずに、おそらく受身的な対応になるでしょう。

そうした場合、やりにくさを感じるでしょうが、うまく対応できないからといって素晴らしいコーチではないということにはなりません。過去にそういった場面に出会っていなかったから、やりにくさを感じるだけのことです。社交性に優れていることは良いことですが、相手に社交性がなかったとしたらうまく対応ができますか。その場の状況を判断して、学習経験を改善するためにどのようなコミュニケーションを取ったらよいかを見つけ出すのは、また別の能力なのです。

あなたのテニスプログラムに関わっているコーチの人たちは、どのくらいの時間若いジュニアの子達と接しているでしょうか。もし、ゼロだったとしたら、その理由を調べる必要がありますね。

### 3. 効率性

技術的なことの指導に時間をかけるだけでなく、ジュニアの子達のニーズにどのくらい耳を傾けていますか。あなたのレッスンを、実際にどのくらい楽しんでいるかわかりますか。感情面や集中力を調整しながら、どのくらい効率的に技術面や戦術面や身体面の力を発揮していますか。

どんなサービスでも効率性と重要な要素がどのくらい遂行できているのかを確認することが鍵を握ります。航空券を買って、空港に行くとしみます。空港では手順に従って案内され、登場して席に付けばク

ルーから歓迎されますね。離陸後は必要に応じて映画などの娯楽を楽しむことができ、目的にまでの旅をするわけです。その行程にはサービスの「質」に関わる非常にたくさんの要素が絡んできます。多くの乗客は、航空会社であったり、空港のスタッフであったり、あるいは機内で知り合った人など、フライトに関して誰からどのような思いをさせられたかを覚えています。

テニスにおいても、ポジティブで記憶に残る経験を提供する機会であると考えて、同様に考えてみましょう。テニスを楽しむための様々な技術の習得は、ポジティブな環境下でのみ可能となるのです。

#### 4. 共感

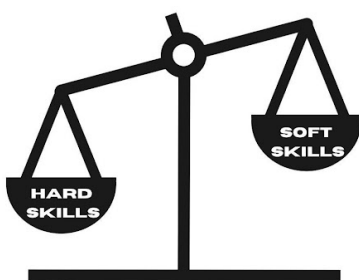
このスキルは、ジュニアプレイヤーの指導に関わるコーチは、彼らの自己認識と成長のために特に意識を持つ必要のあるものです。

ジュニアプレイヤーを指導する上で、彼らの必要とすることや考え方を理解する上で求められる能力です。学校での様子に関する会話や、シンプルなデモンストレーションをして惹きつけるようにすることが、彼らの興味をつなぎとめる上で鍵となります。

共感を伴った指導をするということは、一歩引いて、子どもたちの意見に耳を傾けるようにするという事です。一歩引くとは言っても、子どもたちの様子をコートサイドで腕組みをして見ているということではありません。指導をしている際に、子どもたちのためにどのようなソフトスキルを適用し、あるいは方法の変更をしたらよいかということに気を使いながら観察するという事です。

テニスは、他のスポーツ、特にチームスポーツ以上に、より共感が求められるスポーツです。サッカーの場合、ある選手がミスをした場合には、チームメートがそのミスを解消する行動が見られます。選手のミスをチーム全体が共有しカバーしますが、テニスでは自分がラケットで解決しなければなりません。

テニスという個人スポーツには、プレッシャーが伴います。成功も経験できますが、そこに至るまでの忍耐力や集中力も試されます。皆さんは、子どもたちに必要な事柄に関して、どのくらい共感と理解を示していますか？子どもたちにとって、個人的に与えられたことをこなすのが難しい出ようであれば、仲間と一緒に内容を考えることが必要でしょうか？目の前の子供達の状況をよく観察しましょう。



#### ハードスキルとソフトスキルの融合:

##### 1. 柔軟性

ジュニアプレイヤーに関わる指導者として、ハードスキルとソフトスキルの双方をどのように使い分けるかを知っていることは、子どもたちへの指導が楽しく行え、成功につながる鍵となります。指導内容にいつどのように変化を与えるか、内容全体を変えるのか一部だけを変えればよいのかを判断するという知識はハードスキルです。

子どもたちの年齢相応の内容のレッスンをしているけれども、うまく機能していない場面をよく見かけます。それは、レベルが合っていないのではなく、デモンストレーションや説明がうまく行えていないことが原因で、やることへの理解が不十分となり、やる気につながらないのです。

## 2. 創造性

想像力を働かせれば、コート上での活動が楽しくなります。そうするためにハードスキルを見につけたり、どこかからレッスンプランを取り入れたりするというだけでなく、自分のソフトスキルの幅やどの分野を強化すべきかを認識して、どのようなことができるようになるのかを学び取り、その結果として内容の修正を行って実行に移すということになるのです。また、創造性ということは、子どもたちにスコアリングやゲームのやり方を考えさせるということや、レッスンの手助けをさせるという事も考えられます。年少の子供であっても、こうされることで見と得てもらえているということを感じ、やる気にもつながってきます。

### “努力をすること”の重要性

優れたジュニア指導者というものは、いつも存在感を誇示して数限りないゲームを提供できるということではありません。努力というと体力があって動き回れて、回復力もあることと思われがちですが、ジュニア指導者のそれは、自分のモテるソフトスキルを理解して、状況を適切に読むことなのです。

優れたジュニア指導者は、自分を理解していて、自己移入をしてグループ全体の気持ちの状態を把握できる人です。ソフトスキルを伸ばそうとするには時間がかかります。指導者としての自分の強みと改善点を常に見直すことが必要です。

国や文化や気候や指導スタイルなど、世界中には努力をすることに影響する、いろいろな変動要因が存在します。しかし、一つ言えることは、自分を変えるには自分がどう意識するかにかかっているということです。本当に成長したように見せかけて、内容だけを書き換えるということは簡単にできてしまいます。

レッスンプランを振り返って、自分のソフトスキルの向上の具合や、それとハードスキルの連携の状態などテニスを通じて学べることの確認をする上で、日誌などをつけることをおすすめします。プレイヤーの皆さんとコーチの皆様がコートで良い経験ができることをお祈りいたします。



【筆者紹介】 *Emma Wells* (イマ・ウェルズ): Emma Wells Tennisを経営する傍らPTR UKの代表を務めている。ジュニア指導を専門としており、LTAとPTRの認定コーチであり、カーディオテニスL2、パーソナルトレーナーL3、LTA小学校テニス指導者の資格を持つ。

【翻訳・監修】 鈴木眞一: PTR JAPAN代表、PTR インターナショナル・マスタープロフェッショナル、アド・インテニス代表

### 【ハードスキルとソフトスキルについて】 (訳者補足)

《ハードスキル》ハードスキルとは、特定の業務をこなすために求められる知識やスキルのことです。端的に言えば「専門性が高いスキル」であり、所属している分野での評価に大きく関わってきます。ハードスキルの分かりやすい例は、語学力です。たとえば翻訳の仕事をするなら、当然ながら語学力がなければ一定水準の仕事はできません。ハードスキルは、主に「知識」がベースとなります。たとえば語学力なら、単語や文法といった「知識」を増やせば向上するでしょう。もちろん、実務レベルまで向上させるなら、業務を通して学ぶことも大切です。しかし、そもそも単語や文法を知らなければ、スタートラインに立てません。ハードスキルは多くの場合、評価指標が明確です。専門性が高く、活用できるのは特定の分野・職種に限られます。たとえば、高い語学力があるなら、通訳・翻訳といった仕事で活用できます。しかし、建築士に転職したとすれば、その語学力はあまり活かせないでしょう。

《ソフトスキル》ソフトスキルとは、1人のビジネスパーソンとして求められる知識やスキルのことです。端的に言えば「汎用性が高いスキル」であり、どのような仕事をする時にも役立ちます。ソフトスキルの分かりやすい例は、コミュニケーション能力です。人との関わりが欠かせないビジネスでは、仕事内容に関わらず一定のコミュニケーション能力は必要でしょう。実務でやり取りを重ねないと、コミュニケーション能力はなかなか向上しません。ソフトスキルは定性的なものであり、多くの場合は評価指標

が存在しません。たとえば、コミュニケーション能力のレベルを評価しようとしても、数値化することは困難です。汎用性が高く、基本的にどんな分野・職種でも活用できます。たとえば、高いコミュニケーション能力があるなら、顧客やチームとのやり取りに役立ちます。こうしたやり取りはビジネスなら必ず生じるため、異なる業界に転職したとしても役立つ可能性が高いでしょう。

-以上、文章出典”aipo”. 画像出典”indeed”

対	ハードスキル	対	ソフトスキル
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 読字力</li> <li>・ データベース管理</li> <li>・ Adobeソフトウェアスイツ</li> <li>・ ネットワークセキュリティ</li> <li>・ SEO/SEMマーケティング</li> <li>・ 統計分析</li> <li>・ データマイニング</li> <li>・ モバイル開発</li> <li>・ ユーザーインターフェイス設計</li> <li>・ マーケティングキャンペーン管理</li> <li>・ 保守システムと管理</li> <li>・ プログラム言語 (Perl, Python, Java, Rubyなど)</li> </ul>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 誠実さ</li> <li>・ 信頼性</li> <li>・ 協力的な対応</li> <li>・ オープンな姿勢</li> <li>・ チームワーク</li> <li>・ 寛容力</li> <li>・ 問題解決能力</li> <li>・ 批判的思考</li> <li>・ 適応力</li> <li>・ 情報整理</li> <li>・ 守秘意識</li> <li>・ 共感</li> </ul>
	<p>ハードスキルとは、キャリアや教育などを通じて個人の経験を蓄積して得た、具体的な知識または訓練のことです。</p>		<p>ソフトスキルとは、個人として、または他の人と連携した際の仕事の進め方に影響を与える個人的な習慣や特性をいいます。</p>